

北見工業大学での3年間

また、別れの季節がやってきました。この3月で本学を離れる留学生は、学部卒業生4名、博士前期課程修了生5名、博士後期課程修了生2名、そして短期交換留学生が11名の22名。それぞれの新しい道に幸多かれと祈ります。今月号は、その中の一人、韓国出身の金 東晟（キム・ドンソン）さんに、本学での経験を綴ってもらいました。

私はこの北見工大に、最初の短期留学生としての1年間を含め、約3年間在籍しました。初め日本に来た時は日本語も少ししかわからず、実際日本人と話ができるようになるまではかなり時間がかかりました。今思い出せば、日本に来て半年くらい過ぎるまでは言葉も通じない生活でホームシックになった時もありました。その時、私を支えてくれたのは皆さんの暖かい心でした。国際交流センターでは、留学生歓迎会、インターナショナルCアワー、



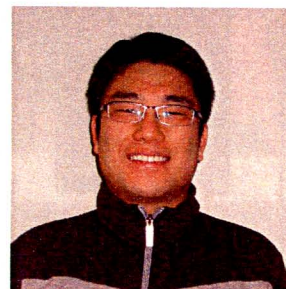
北見西ロータリークラブの
皆さんと



研究室の仲間と先生

日本語授業など色々なプログラムで応援してくれました。また、北見市ロータリークラブ西地区の方にも家族のように接して頂いたり、学校の研究室生活では、外国人の私に皆いつもとても親切にしてくれ、心から優しく接してくれました。自分が言いたい事を自分が今知っている日本語だけで表現することはかなり難しく、何度もその思いを伝えるのに悔しい思いをしました。それでも諦めずにここまでやってこられたのは、私を理解してくれ、助けてくれた仲間達のお陰だと思っています。

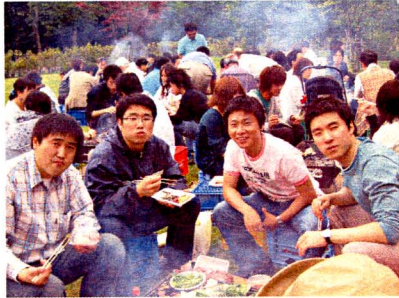
辛いことばかりではなく楽しい事もたくさんありました。学校祭では同じ韓国人留学生の仲間と一緒に『韓国屋台』をやりました。前々からたくさん話し合っ準備をし、なんとかこの機会に少しでも韓国の文化を伝えようと考え、韓国のさまざまな物を用意して屋台で販売しました。人気の食べ物の『チヂミ』を作ったり、代表的なお酒『マッコリ』なども振る舞いました。工大生や他の外国人留学生のみならず北見市民の方達も大変興味を持ってくれ、たくさんの方



機械システム工学専攻
博士前期課程2年
金 東晟（韓国）



大学祭の屋台



国際交流行事にて

達が来てくれました。交流センターの先生や友達、北見市の方々が「チヂミ美味しかったです。どうやって作るのですか？」などと聞いてくれ、商品もたくさん買ってくれました。「勉強頑張ってください」と励ましの言葉もいただいたり、とても嬉しかったです。

近年の『韓流ブーム』のお陰か韓国ファンの方達も多く、その関心の深さに驚くと同時に、とてもありがたく思いこれからも韓国と日本の友好関係が長く続いて行く事を願っています。韓国とは違う部分が多い日本での生活にも今では慣れ、とても住みやすいこの北見が大好きで、第二の故郷になりました。

私は北見工業大学に来て勉強だけではなくもっと大事な事をたくさん学びました。日本で経験したすべての事を吸収し、自分の物にして、貴重な体験を無駄にすることなく、これからの人生に役立てて行きたいと思います。最後に、私を支えてくれた家族、友達、大学の方々、お世話になった日本のみなさん本当に感謝しています。とても楽しかったです。ありがとうございました。



お元気で・・・



これまで2年間、留学生の日本語の授業の担当であった堀尾講師が、新年度から宇都宮大学に移ることになりました。

「期待と不安を胸に北見に赴任して早2年。純粋で一生涯懸命な学生さんたちに囲まれて、幸せな日々を過ごす事ができました。北見工大で培った経験を宇都宮大学でも生かしたいと思います。『合縁奇縁（=恩愛による人との縁は不思議な力に因る）』、またどこかでお会いしましょう。」

大成功！ 留学生による日本劇

2月8日、日本語初級クラスの留学生による日本語劇が上演されました。台本を一から自分たちで起こした創作コメディー、「かわいそうな姫」の内容は、親の寵愛を一身に受けたわがままな姫が自分の身勝手から恋愛に失敗するというもの。主役の姫をはじめ、各出演者の熱のこもった、かつコミカルな演技に、会場からは終始笑いが絶えませんでした。



出演者の一人、台湾からの短期交換留学生、スウ・シャウシェンさんは、「劇の内容に加えて衣装や音楽の準備もあって大変でした。でも、みんな表現力がすばらしかったと思うし、協力して成功させることができ感動しました。帰国前のいい思い出になりました」と話していました。

今日の日はさようなら ー留学生交流の夕べー



3月9日、4月で本学を卒業・修了する外国人留学生の送別の会「2010年留学生交流の夕べ」が本学コミュニケーションアトリウムにおいて行われました。会には、留学生だけでなく、本学学生や先生、又、留学生が大変お世話になった方々も多数参加していただきました。

会は、鮎田学長からのお祝いの言葉で始まりました。続いて卒業生・修了生を代表し、博士後期課程を修了する

朱智瑩さんに、留学生活の思い出や将来の抱負などエピソードを交え修了の喜びを語ってもらいました。続いて山岸センター長から、卒業・修了する留学生の、思い出や今後の進路などについてのお話を交えた紹介があり、一人一人に学長から心のこもった記念品が渡されました。



セレモニーが終わり楽しいパーティーが始まりました。高橋副学長の乾杯の後、留学生は、お世話になった先生や市民の方たちとそれぞれのテーブルに集まり、遠慮のない中で思い出や新たな生活について思う存分語り合っていました。また、たまたま同じテーブルで初めて出会った人たちの間にも話の輪が広がっていきました。



会も盛況となった中、いよいよアトラクションが始まりました。毎年、留学生をメインに沢山の方が出演してくれる人気のプログラムです。恒例となっている、ウイグル自治区からの留学生による踊りから始まりました。留学生のアイヌルさんが踊り始めると、すかさずキルギスの帽子をかぶった山岸センター長が加わり、次々と帽子が参加者の間を巡り、帽子を被った人が次にアイヌルさんの踊りの相手になるという趣向で、喝采の中会場は大変盛り上がりしました。続いてはポーランドからの留学生アンナさんの、噂の美声によるポーランドと日本の歌。中国からの留学生の董健君と曹羸君による男性デュエットが、力強い歌



声を披露してくれた後は、中国、モンゴル、台湾、ポーランド各国留学生のコーラスが、特大のカンペを見ながらも一生懸命歌ってくれました。卒業生の高博君は、友人の沖松君の伴奏で、日頃鍛えた自慢の歌声を披露し、大学院留学生の湯文俊君は、会場の隅々に響き渡る声量で熱唱しました。最後は、フセイン先生のエジプトの歌と、アイヌルさんのエキゾチックなダンスに、会場が一つになって楽しみました。



楽しい時間は過ぎ、最後の乾杯となりました。お互いに名残惜しい気持ちで、それぞれに北見工業大学での最後の時を心に感じていました。卒業生・修了生の皆さん、本当におめでとうございます。北見工業大学を巣立ってから、学んだことや沢山の人たちとの出会いを胸に新しい地での活躍を祈っています。



卵の殻のおひなさま

@ International "C" Hour



2月のインターナショナルCアワーは、一足早いひな祭りを行いました。プログラムはまず、会場に飾ったひな人形を前に、OFICの男子メンバーが、この日のために練習を重ねたひな祭りの由来の説明を英語と日本語でプレゼン。その後参加者はそれぞれ、あらかじめ中身を抜いた卵の殻を使い、テーブルに並んだ桜餅と卵焼きをつまみながら、思い思いのひな人形作りを楽しみました。

できあがったひな人形は、いわゆる日本のひな人形のイメージにとらわれない、個性豊かなものばかり。金髪と赤毛のカップルを作成した、ポーランドからの留学生、アンナ・プオンカさんは、「面白かったです。みんな一生懸命作った甲斐あって、どれもきれいでした。本物のおひな様と一緒にたくさん写真も撮れてよかった」と話していました。



お知らせ

* 2月18日から25日にかけて、本学の交流協定校のひとつである韓国の江原大学校三陟キャンパスより、学生5名と引率3名の短期交流研修団が本学を訪れました。

* 新年度は、29名の新しい留学生が本学に加わる予定です。内訳は学部入学者12名、大学院博士後期課程入学者3名、そして短期交換留学生14名です。

* 新年度より、堀尾佳以特任講師の後任として鈴木衛講師、小林千春非常勤講師の後任として尾山勝久講師が、それぞれ着任します。両名とも、留学生の日本語授業の担当です。

* 新しい留学生のためのオリエンテーションを、4月8日(木)10時半より総合研究棟3階のリフレッシュルームで行います。新留学生の皆さんは必ず出席してください。

* 4月のインターナショナルCアワーは、4月20日(火)16時半からの予定です。

World Wisdom

この世を脅かすのは、
全てを変えようとする人々と、
何も変えようとしない人々です。

—Nancy Astor
(英国初の女性代議士)